

3. これまでの取り組みと課題

3.1 北九州市における自転車に関する計画

(1) 北九州市自転車利用環境計画の策定

「元気発進！北九州プラン」に掲げる「世界の環境首都」にふさわしい交通体系の実現に向け、環境にやさしい自転車の利用環境の向上を図る総合計画として、平成24年11月に「北九州市自転車利用環境計画」を策定しました。

この計画に基づき、自転車通行空間ネットワーク形成などのハード施策に加え、ルール・マナー・教育などのソフト施策に取り組んできました。



図 北九州市自転車利用環境計画

自転車利用促進のためのテーマ

1. 「世界の環境首都」の実現
2. 健康増進
3. 「街なか」の賑わいづくり
4. 自転車のある新しいライフスタイルの創出

自転車利用の促進策

ハード施策

- 自転車通行空間ネットワーク形成
- 駐輪環境形成
- 自転車と公共交通の連携

ソフト施策

- ルール・マナー・教育
- 利用促進
(環境、健康、賑わいづくり・
新しいライフスタイル)

図 北九州市自転車利用環境計画の取り組み

(2) 北九州市自転車活用推進計画の策定

本市における自転車に関する現状と課題を踏まえ、自転車の活用を総合的かつ計画的に推進することを目的とした「北九州市自転車活用推進計画」を令和3年1月に策定しました。本計画では、国や福岡県の自転車活用推進計画を勘案し、4つの計画目標を定め、それぞれの目標に応じた、ハード、ソフトの両面から施策を展開しています。

（計画期間は、令和3年度（2021）年度から令和12（2030）年度までの10年間）



図 北九州市自転車活用推進計画

自転車の活用を推進するための計画目標

- 目標1：自転車を快適に利用できる環境づくり
- 目標2：自転車を活用した市民の健康づくり
- 目標3：自転車を活用した観光・賑わいづくり
- 目標4：自転車を安全・安心に利用できる環境づくり

目標を実現するための施策

- | | |
|------------------------------|------------------------------------|
| 施策1. 自転車通行空間ネットワークの形成 | 施策9. 自転車通勤の促進 |
| 施策2. 利用しやすい駐輪環境の形成 | 施策10. サイクルツーリズムの推進 |
| 施策3. 放置自転車対策の推進 | 施策11. シェアサイクル事業の推進【再掲】 |
| 施策4. シェアサイクル事業の推進 | 施策12. 自転車通行空間ネットワークの形成【再掲】 |
| 施策5. サイクル&ライドの促進 | 施策13. 自転車の安全利用に向けた
市民の交通安全意識の向上 |
| 施策6. 自転車利用の促進に関する
情報発信の充実 | 施策14. 自転車保険の加入促進 |
| 施策7. 健康増進に関する広報・啓発 | 施策15. 自転車盗難の防止 |
| 施策8. 自転車貸出し施設の活用 | 施策16. 災害時における自転車の活用 |

図 北九州市自転車活用推進計画（R3.1）の取り組み

3.2 自転車通行空間ネットワークの形成

本市では、小倉都心など、「自転車利用が多い地区」、「駅に自転車が集まる地区」、「自転車利用を促進する地区」である13の地区を整備拠点に設定し、これら拠点内及び拠点間を結ぶ自転車通行空間を整備することにより、自転車通行空間ネットワークの形成を推進してきました。

設定した13の整備拠点のうち、特に自転車利用の多い7つの地区について、

- ・公共交通、学校、主要商業施設、主な居住地区などを結ぶ地区内の自転車利用の主要路線
- ・自転車関連の事故が多い路線
- ・ネットワークの連続性を確保するために必要な路線

など、整備効果の高い路線を選定して、自転車ネットワーク計画を定め、この計画に基づき、令和7年度末までに約47kmの自転車通行空間の整備が完了しています。

また、上記7地区以外も含めた市内全体でみると、約55kmの整備が完了しています。

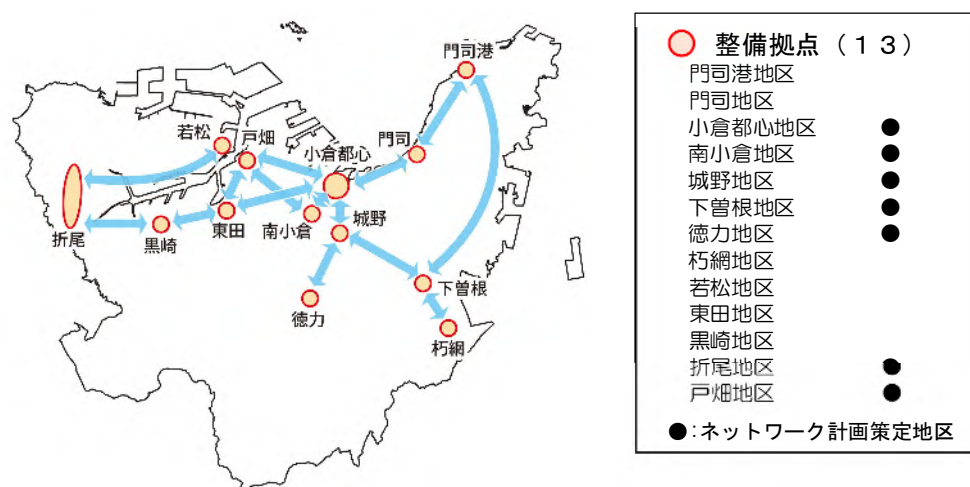


図 自転車通行空間ネットワーク形成のイメージ

区分	自転車道	自転車通行帯	車道混在	自転車歩行者道 (分離タイプ)	
図	 歩道 自転車道 車道 路側	 歩道 自転車通行帯 車道 路側	 歩道 車道混在 車道 路側	 歩道 (自転車歩行者道) 車道 普通自転車車の歩道通行部分	計
延長	0.0km	18.7km	21.5km	14.9km	55.1 km

図 自転車通行空間の整備実績（令和7年度末時点）

資料：北九州市道路維持課

市民アンケート調査では、自転車を利用していない人が自転車を利用ようになるための条件として、「自転車が安全で走り易い道路が増えれば利用したい」との回答が約３８％と最も多くなっています。

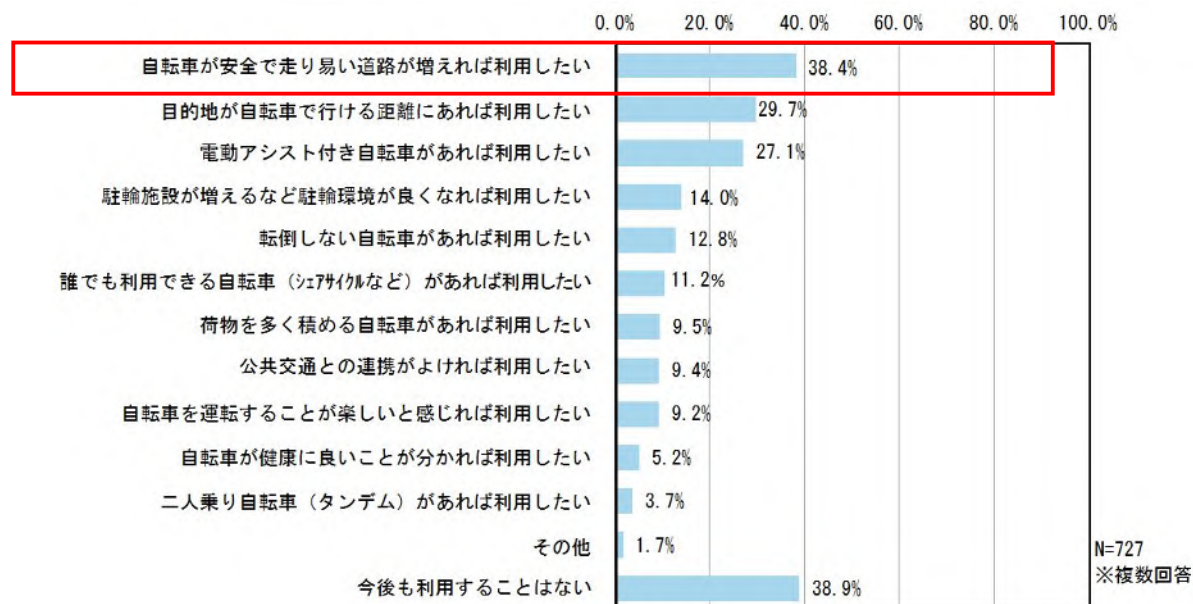


図 自転車を利用していない人が自転車を利用ようになるための条件

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

また、自転車利用を促進するために必要な施策についても、「自転車通行空間の整備」との回答が約７２％と最も多くなっています。

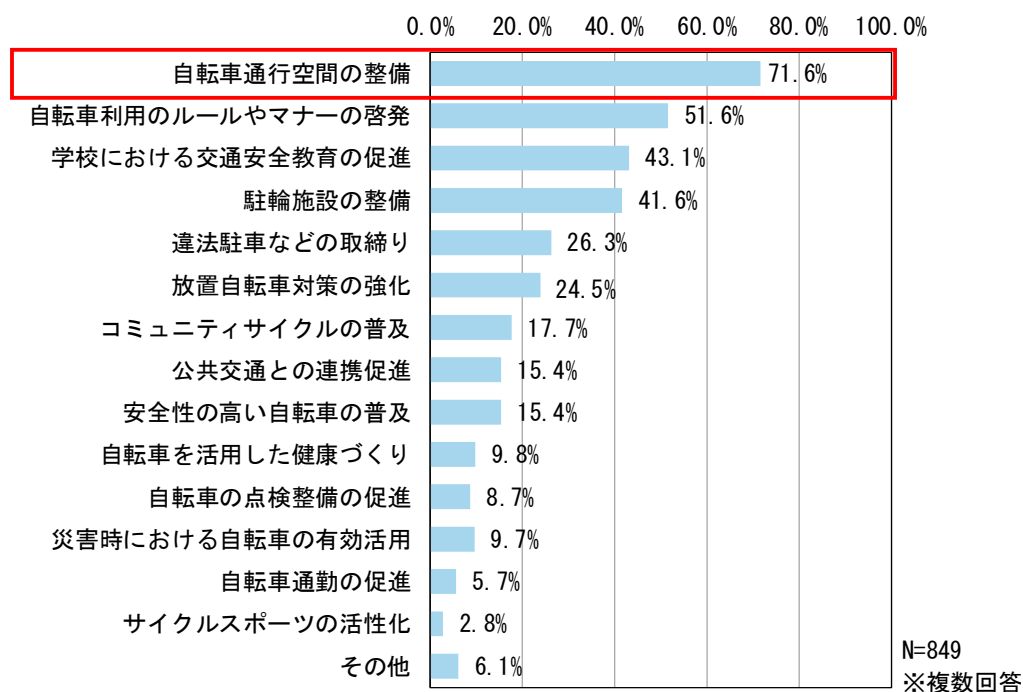


図 自転車利用を促進するために必要な施策

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

＜小倉北区：市道城内木町 1 号線＞



自転車通行帯の整備例

＜小倉北区：中井井堀 1 号線＞



車道混在の整備例

資料：北九州市道路維持課

【課題】自転車通行空間の整備推進

令和8年4月に自転車の危険な交通違反を対象とした交通反則通告制度（いわゆる「青切符制度」）が導入され、交通ルール遵守の重要性とともに、自転車の安全な利用に対する市民の関心も一層高まっています。

こうしたなか、市民アンケート調査では、依然として自転車通行空間の整備を求める声が多いことから、更なる自転車利用の促進を図るためには、引き続き、安全で快適な自転車通行空間の整備を推進していく必要があります。

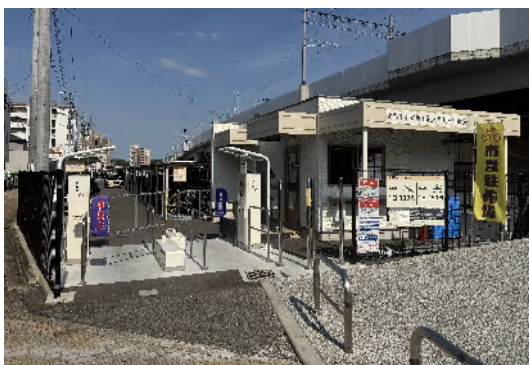
3.3 利用しやすい駐輪環境の形成

自転車を利用する目的や利用時間等の利用特性に応じた駐輪施設の整備を進め、利用しやすい駐輪環境の形成を推進しています。

(1) JR 駅等の交通結節点周辺に設置した駐輪施設

駐輪需要の多い JR 駅やモノレール駅、バス停の周辺に駐輪施設を設置し、周辺の放置自転車を抑制するとともに、自転車と公共交通との円滑な連携の促進を図っています。

＜折尾駅東自転車駐車場＞



＜スペースワールド駅前自転車駐車場＞



JR 駅周辺などに設置した駐輪施設

資料：北九州市道路維持課

(2) 市営有料自転車駐車場における自動入出庫機器の導入

自転車利用者の利便性向上と運営の効率化を図るため、自動入出庫機器の導入を進めています。これにより、24 時間 365 日の入出庫や、現金のほかキャッシュレス決済（ＩＣカード、各種ＱＲコード決済、クレジットカード等）の利用が可能となります。

＜小倉駅北口自転車駐車場＞



＜西小倉駅前自転車駐車場＞



自動入出庫機器（自動ゲート）の導入例

＜小倉駅南口自転車駐車場＞



自動入庫機器（個別ロック式）の導入例

＜利用可能なキャッシュレス決済＞



(3) 駐輪施設の無料化

施設利用の効率化を図るため、利用実態を踏まえ、市営有料自転車駐車場5施設を令和7年4月1日から無料化しました。これにより、24時間365日利用可能になるなど、利用者の利便性が向上しました。

○無料化した施設（R7.4）

- ・若松渡船場前自転車駐車場
- ・本城駅前自転車駐車場
- ・陣原北自転車駐車場
- ・若松駅前自転車駐車場
- ・陣原南自転車駐車場

(4) 公共の駐輪施設

	箇所数	収容台数
市営有料自転車駐車場	18箇所	6,385
市営無料自転車駐車場	52箇所	5,291
その他の駐輪施設※	6箇所	589
計	76箇所	12,265

※小倉北区の旦過地区や堺町地区などに市と民間事業者が協働で設置した駐輪施設

表 公共の駐輪施設（R8.3）

【参考】自転車駐車場の付置義務制度

公共の駐輪施設以外にも、多くの駐輪需要が生じる商業地域・近隣商業地域に新築・増築等を行う一定規模以上の小売店舗については、所定の自転車駐車場を確保するよう条例で義務付けています。

市民アンケート調査では、自転車利用を促進するために必要な施策として、「駐輪施設の整備」との回答が4番目に多い約42%となっています。

また、自転車を利用していない人が自転車利用するための条件についても「駐輪施設が増えるなど駐輪環境が良くなれば利用したい」が4番目に多くなっています。

また、自転車駐輪施設の利用の有無については、自転車利用者の87%が駐輪施設を利用していますが、残り13%は利用していません。

その理由として、「目的地またはその近辺に駐輪施設が無い」が最も多く、続いて「邪魔にならない場所なら停めても良いと思う」や「長い時間停めない」となっています。

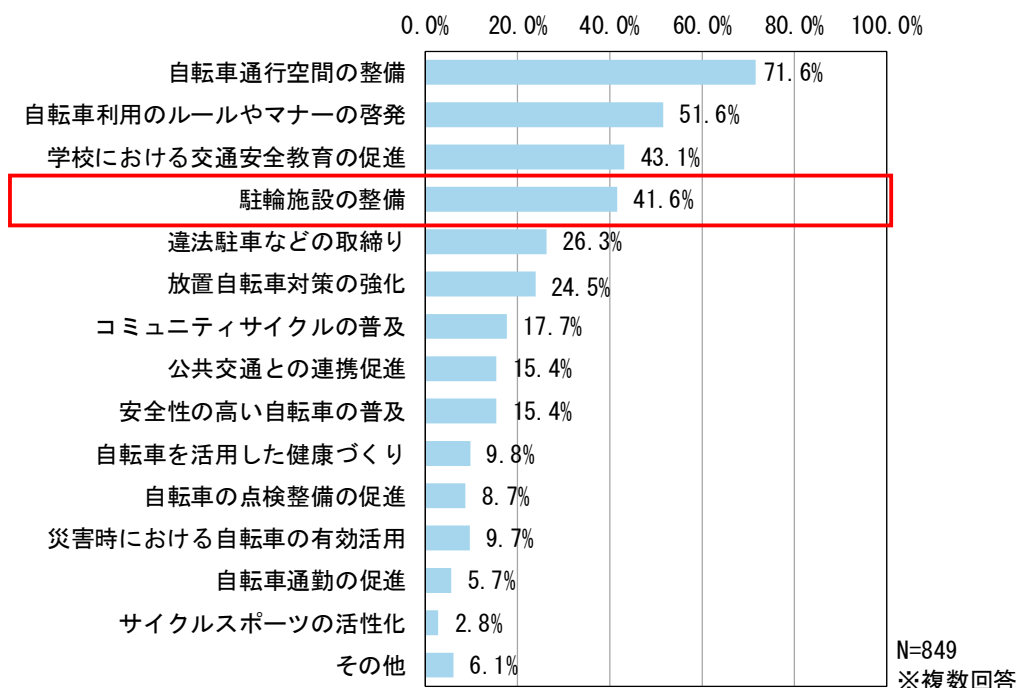


図 自転車利用を促進するために必要な施策

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

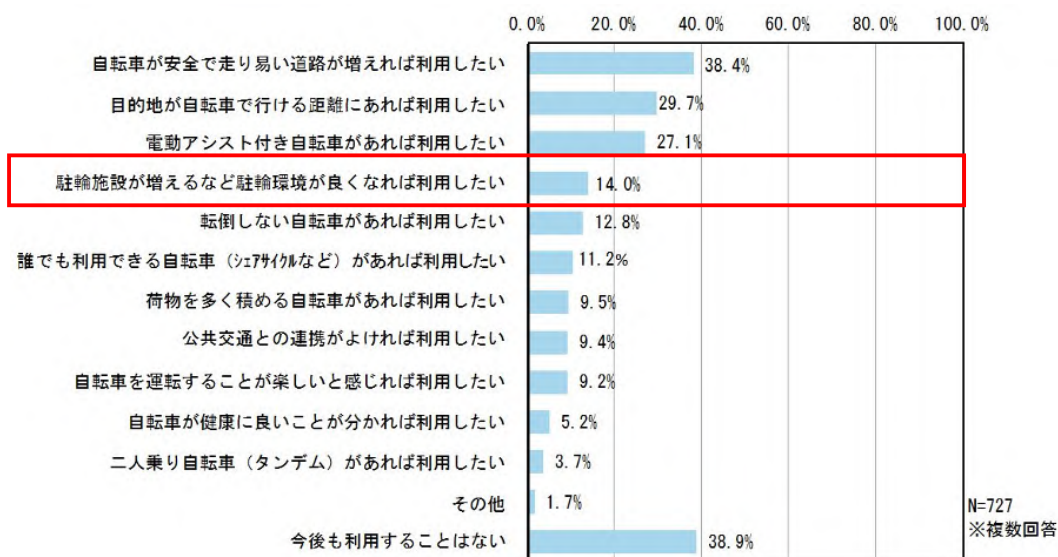


図 自転車を利用していない人が自転車を利用するようになるための条件

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

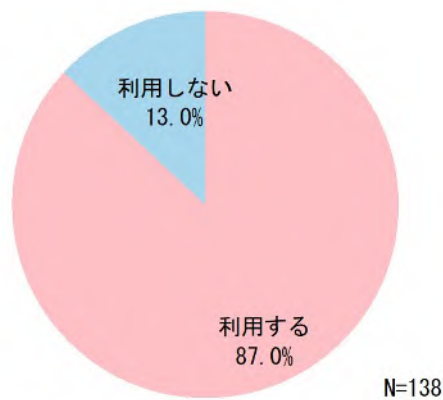


図 自転車駐輪施設の利用有無

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

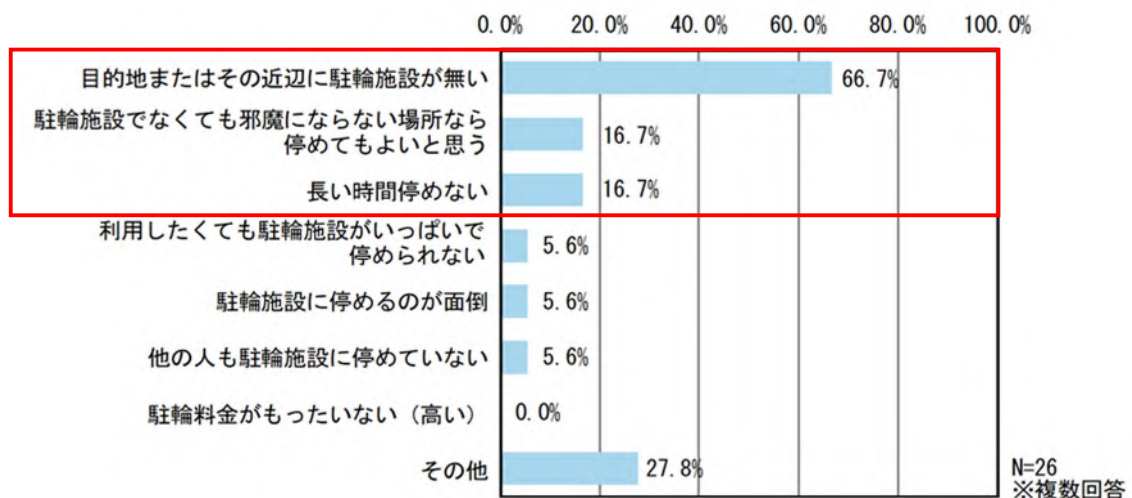


図 駐輪施設を利用しない理由

資料：北九州市自転車利用に関する市民アンケート（R8.1）

【課題】 利用しやすい駐輪環境の形成

自転車の利用促進を図るためには、自転車通行空間の整備とともに利用しやすい駐輪施設の整備を推進する必要があります。

これまでの自動入出庫機器の設置や有料自転車駐車場の無料化などの取り組みにより、利便性が向上したことで、駐輪施設を利用する人の割合が87%と高い結果となっています。引き続き、利用者のニーズに応じた、駐輪施設の整備や駐輪環境の改善を推進し、更なる自転車の利用促進を図ります。